

# 新むつ小川原株式会社 第16回経営諮問会議

## 議 事 次 第

日 時：2016年5月19日（木） 9時30分～10時45分

場 所：経団連会館 2階 経団連ホール北

1. 開 会
2. 出席者紹介
3. 榊原座長挨拶
4. 経営概況報告
  - (1) 2015年度決算見込み
  - (2) 2015年度広報活動実績
  - (3) 2016年度事業計画
  - (4) 特別土地保有税の減免
  - (5) むつ小川原開発地区関連事項
    - ①青森県原子力人材育成・研究開発拠点施設（仮称）の整備
    - ②データセンターの完成
    - ③再生可能エネルギー施設の建設及び計画
5. 意見交換
6. 閉 会

### （出席委員等名簿）

座 長	榊 原 定 征（日本経済団体連合会会長）
座長代理	樋 口 美 雄（慶應義塾大学教授）
委 員	遠 藤 哲 哉（青森公立大学教授）
	杉 本 康 雄（青森経済同友会代表幹事）
	徳 山 日出男（国土交通事務次官）
	戸 田 衛（六ヶ所村長）
	沼 田 廣（青森県経営者協会会長）
	三 村 申 吾（青森県知事）
	柳 正 憲（株）日本政策投資銀行代表取締役社長）
	若 井 敬 一 郎（青森県商工会議所連合会会長）

### （新むつ小川原株式会社）

代表取締役社長	薄 井 充 裕
代表取締役常務	岩 間 芳 仁
取締役青森本部長	三 上 雄 二
取締役	岸 本 稔
監査役	川 俣 尚 高

2016年5月19日

## 第16回 経営諮問会議 報告

新むつ小川原株式会社  
代表取締役社長 薄井充裕

### 第16回経営諮問会議 報告

新むつ小川原株式会社第16回経営諮問会議が5月19日(木)経団連会館で開催されました。その概要につきましては以下のとおりです。

#### 報告事項

1. 2015年度決算見込みについて
2. 2015年度広報活動実績
3. 2016年度事業計画
4. 特別土地保有税の減免
5. むつ小川原開発地区関連事項
  - ① 青森県原子力人材育成・研究開発拠点施設(仮称)の整備
  - ② データセンターの完成
  - ③ 再生可能エネルギー施設の建設及び計画

これに対しまして、各委員から以下のとおり意見・助言を受けました。

1. 経営諮問会議座長の榊原です。議事進行を務めさせていただくので、よろしくお願い申し上げます。  
国、青森県、六ヶ所村、青森県財界をはじめとする関係の皆様には、日頃より、新むつ小川原株式会社への多大な支援、協力をいただいていること、心より御礼申し上げます。  
昨年9月、新むつ会社の協力のもと、初めて、むつ小川原開発地区を視察した。現地では、三村知事、戸田村長との懇談の機会も頂戴し、大変充実した視察となった。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。  
視察では、原子燃料サイクル施設、国家石油備蓄基地、メガソーラー、風力発電など、多くのエネルギー関連施設が立地している様子を拝見し、むつ小川原開発地区が総合的なエネルギー基地として発展し続けていることを実感した。また、核融合研究関連施設や寒冷地型データセンターの立地など、未来の日本を支えるイノベーションの重要な拠点でもあると感じた。  
新むつ会社には、今後とも、国、青森県、六ヶ所村をはじめ、関係の皆様の指導と支援を頂きながら、むつ小川原開発地区の重要性について、国民や企業の幅広い理解を得るとともに、企業立地の推進に努めて頂きたいと思う。むつ小川原開発地区が、イノベーションと地方創生の代表例として、ますます発展さ

れることを期待している。経団連としても、引き続き、関係の皆様方と協力して、むつ小川原開発地区を盛り立てて参りたいと考えている。

2. 新むつ小川原株式会社が安定的な経営を維持していることについては、薄井社長をはじめ経営陣の皆様方の御尽力と、委員の皆様方の御支援、御協力の賜であると深く感謝申し上げます。

さて、県では、原子力関連施設の立地環境を活かし、原子力分野の人材育成・研究開発に積極的に貢献していきたいと考え、その活動の拠点となる施設整備を進めている。

平成29年度の拠点施設の開設後は、多くの大学・研究機関・関連企業等の参画を得て、当該施設が広く活用されるよう、委員の皆様の一層のお力添えをよろしく願います。

また、本年3月に新たな青森県エネルギー産業振興戦略を策定し、むつ小川原開発地区における重点プロジェクトを掲げているところだが、その中で、再生可能エネルギーを活用したCO<sub>2</sub>フリーの水素製造実証プロジェクトの実現を目指し、取り組んでいきたいと考えている。

榊原会長には、昨年、むつ小川原開発地区を御視察いただき、当地区の大いなる可能性を実感していただいたと存じますが、会長をはじめ、委員の皆様には、むつ小川原開発推進のための様々な取組に対して、引き続き御支援・御協力を賜るようお願いする。

新むつ小川原株式会社におかれては、国、県、六ヶ所村及び経済団体と密接な連携と協調の下、更なる分譲の促進と地域の振興に御尽力されるよう、よろしく願います。

3. 昨年、榊原座長をはじめ関係者の皆様には、多忙中にもかかわらず本村を視察いただき、お礼を申し上げます。

ただ今報告があった経営概況についてであるが、引き続き安定した経営がなされていることは、薄井社長をはじめ役職員の努力、尽力の成果であり、深く敬意を表するところである。今後もむつ小川原開発地区の企業立地の促進と雇用の拡大・増大が図られるようお願い申し上げますとともに、村としてもできる限りの支援と協力をして参りたいと考えている。

むつ小川原開発地区においては昨年国内最大規模の太陽光発電施設が運転を開始し、今年1月に本村の冷涼な気候を活用したデータセンターが稼働した。来年も大規模な太陽光発電施設が運転を開始する予定であり、さらに「青森県原子力人材育成・研究開発拠点施設」も来年の開設に向けて、整備が着実に進められていると伺っている。これら施設の立地は、産業観光に取り組む村にとって大変喜ばしいことであり、関連研究や業務に携わる方々の往来が増えることも期待されるので、引き続きホテル誘致の実現に向けて皆様の支援、協力を賜るようお願い申し上げます。

村では、平成28年度から37年度までの10年間を計画期間とする「第4次六ヶ所村総合振興計画」を策定したところである。本計画では、「自然と歴史に培われた郷土を愛する心を大切にしながら、科学やエネルギーなど新たな可能性を

持つ未来社会へ向けて躍進する」を村のまちづくり理念に掲げており、村は今後も、新むつ小川原開発基本計画に沿った産業展開や企業・研究機関の誘致の推進に取り組むのは勿論のこと、企業関係者や新たに居住する方々を含め、村民の皆様が暮らしやすいまちづくりを目指して、今後も各種施策やインフラ整備等を進めて参りたいと考えている。

いずれにしても、各種施策を着実に実現させるためには、本日ご出席の皆様の支援と協力を頂かなければならないので、何分にも宜しくお願い申し上げます。

4. 先程、2015年度の決算見込みを聞き、分譲及び賃貸増が図られ10年連続で黒字を達成し、繰越欠損を解消したことは大変喜ばしいことである。今後も引き続き青森県の雇用の創出につながる企業誘致に力を注いで頂きたい。また、榊原会長には昨年むつ小川原開発地区を視察頂き感謝申し上げます。

先般、新たな市場創出に向けた「官民戦略プロジェクト10」が打ち出されたが、2020年度の各市場規模の目標が示され、これを一つずつ達成すればGDP600兆円が実現できると期待されている。「プロジェクト10」の中でも観光立国に注目しており、具体的にはインバウンドの外国人旅行者の数を増やし、その方々が消費する額を現行3.5兆円と見積もられているが、その倍以上の8兆円まで増やすことである。旅行者を増やすには、魅力ある観光地を整備していくことが必要で、従来神社・仏閣・景勝地・温泉のほかにも日本の産業文化も大きな観光資源となる。

産業観光と言われるが、むつ小川原開発地区は日本を代表するエネルギー或いは環境・技術・先端産業が集約された場所で、日本の強みをPRすることができる産業観光の拠点として位置づけられると考えている。また、インバウンドの旅行者だけではなく、国内の学生達の修学旅行或いは企業・団体の視察旅行先としても魅力ある場所である。このためには、国土交通省・観光庁・外務省・青森県・市町村・各種学校・企業等が連携して情報を共有化することが大切である。当然、旅行者が増えると、宿泊施設が必要となり、産業観光を後押しする意味からも是非、本格的なビジネスホテル等を建設することが必要であり、毎回、申し上げているが機が熟してきたと思われるので、県・村・会社にて推進して頂きたい。

下北半島縦貫道路の整備であるが、この度、一部区間がさらに開通される見込みとなったものの、全線開通までには時間を要する。いざとなった時の避難道路としてまた、下北ジオパーク構想実現のためにも、併せて産業観光の動脈として重要であることから、引続き国の支援をお願いする。

5. 決算の見込みを伺い、10期連続しての黒字は企業経営者としては羨ましく、役員一同の尽力に敬意を表する。

毎回申し上げているが、アクセス道路の問題である。六ヶ所村へ行くにはどこの駅から行けば一番近くて便利なのか、再度、見直しをする必要がある。空路であれば三沢又は青森であり、新幹線であれば八戸駅であるが、距離で短いのは七戸十和田駅から40kmしかなく、その間の道路整備が出来上がれば、現在は車で50分から1時間のところを、30~40分で行ける距離感が非常に大事である。外から見れば六ヶ所村はすごく遠い、中々行きにくい、時間がかかるとい

イメージが根付いている感があるので、新幹線の駅から 30～40 分で行けるイメージづくりが大事であり、アクセスの強弱の付け方を再度見直したら如何か。地方創生の観点から申し上げると、データセンターや ITER 施設などが多く立地し、また風力発電・太陽光発電も立地しているが、雇用が少ない施設で、地方創生からは従業員を多く雇用できる製造業、施設の誘致をどうすべきかに的を絞るべきである。

各経済団体の方々が視察しているが、単年度計画ではなく、エリアや回数を例えば 5 年スパンごとに視察計画を作り実行して行くことが必要である。

交流人口も必要で、インバウンド・修学旅行等あるが、中高校生がエネルギー施設を見学すれば感激すると思われるが、休憩所やレストラン等子供達が体験して楽しめる施設が欠けているので、これらの施設を整備すればエネルギー基地のみではなく、面白さもアピールが出来るのではないか。また、都市機能を充実させることが必要で、出張して、また再度訪れたい、または住んでみたいと言われる都市機能の整備が必要でホテルは絶対的である。鶏・玉子論はあるが、とにかくホテルがないと次のステップアップにならないので、そのためには進出してくれるホテル事業者への助成金制度なり、何かの手当てが必要であるので、再度、根本から検討をし直すべきで、このためには私共、経済団体としても一緒にサポートして参りたい。

6. 新むつ小川原株式会社におかれては、堅実な経営により 10 期連続で黒字を維持するとともに、繰越欠損金を解消したとのことで、経営陣の努力に敬意を表する。

開発地内の施設等の立地状況についても、東北地区最大級のデータセンターや国内最大規模のメガソーラー発電が稼働するほか、原子力人材育成・研究開発拠点施設の整備が進むなど、関係者の尽力を大変心強く感じている。

国土交通省では、昨年 8 月、新たな「国土形成計画」を策定した。個性豊かな地域が相互に連携することにより、地域の活力やイノベーションを創出する「対流促進型国土」の形成を基本コンセプトとしている。本計画において、「むつ小川原地域は、我が国のエネルギー政策及び原子力政策上重要な施設が立地しており、その特色を活かしつつ、貴重な空間として、我が国の発展に活用すべく開発を推進する。」と位置づけられている。

本地域の特色を活かした「対流」と「開発」を推進するには、整備が進む広域交通ネットワークのストック効果を活かしていくことが重要となる。「下北半島縦貫道路」については、未着手区間であった「むつ～横浜」間(約 21km)のうち、横浜北バイパス(10.4km)を平成 28 年度より新規事業化した。「東北縦貫自動車道八戸線」についても、鋭意整備を進めている。さらに、本年 3 月に北海道新幹線が開通した。

これらの交通ネットワークの整備を通じ、更なる立地の進展に加え、エネルギー関連施設を活かした産業観光の発展なども期待している。引き続き、関係機関、地元自治体の皆様と協力しながら、むつ小川原開発の新たな展開に力を尽くして参りたい。

7. 10期連続しての黒字が確保できたこと、何よりも繰越欠損金を解消したことは、新むつ会社、経団連をはじめとした関係者の皆様の努力の賜物と、深く感謝申し上げます。

2014年4月に再生可能エネルギープロジェクトの起工式の関係でむつ小川原開発地区を視察した。3回目の訪問であったが、原子燃料サイクル、国家石油備蓄基地、風力発電、太陽光発電と総合エネルギー基地になり感無量であった。その時の経路を思い出せば、新幹線八戸駅から三沢市の「青森屋」へ宿泊し、翌日、むつ小川原開発地区を訪問したが、先ほどのご発言にもあったように、七戸十和田駅からの直行ルートとか、ホテル建設とか、インフラ面での一層の充実がこれからの課題で、特にこれから産業観光にも力をいれることから、この二つが必要不可欠であると思われる。

我々銀行が何をむつ小川原でなすべきかということ、むつ会社は借入金には頼らないとされていることから、進出する会社にファイナンスをすることが大きな仕事であると思っている。

例えば、現在当地に立地している会社に関連する分野へのファイナンスでは、日本原燃(株)や太陽光発電所はもとより、風力発電会社と組成するファンドにおける投資先発電会社の資産の流動化、ホテル運営会社と組成するファンドを通じた事業承継支援など、これからは「リスクシェアファイナンス」も進めたいと考えている。

また、我々銀行はファイナンスだけでなく、もう一つの柱として、色々な情報をお伝えするとか、まちづくりのプランを提案するとか、知的貢献も重要な仕事と思っているので、今後、関連の皆様と協力しながら引き続き努力していきたいと考えている。

8. むつ小川原開発地区のパンフレットにある写真であるが、太陽光パネルがまるで海のごとく広がり、随分景色が変わっているので早く航空撮影を実施願いたい。

昨年、東北経済連合会の方々をエネルギー研修でむつ小川原から大間までご案内し、太陽光・風力エネルギー、原子燃料サイクル、東通原発、中間貯蔵施設、建設中の大間原発を総勢27名ご案内し、むつ市に宿泊したが、これらの施設を視察するには最低1泊乃至2泊が必要となる。再生エネルギーから最新エネルギーまで、また未来のエネルギーである核融合の研究開発やスパコンも設置されており、現在の日本のエネルギーの現状と将来の日本のエネルギーのあり方について、むつ小川原地区は良いパッケージとなっていることから、2泊3日程度でじっくり視察できるように研究しては如何か。そのためには六ヶ所村に宿泊施設が必要で、フローリテックまで視察できる関連づけた旅行商品、企画を検討しては如何か。視察された方々からは「話には聞いていたが、百聞は一見にしかず、見たらすごい施設である」という感想であった。特にITER施設については、世界中がどういうものを目指しているのか良いサンプルになっているし、日本の国家の意思を示している。日本のエネルギーや将来のあり方をむつ小川原を視察すれば解るようにし頂きたいし、パンフレットは良くまとめているが、将来望まれるものは何かをストーリー性を持って頂ければ有り難い。

太陽光パネルの下の草であるが、上手く使えないか、福島県の農業者がパネル

の下で何らかの作物を作っている。山羊を放牧するとか、商社系の事業者の知恵を生かして農産連携を検討しては如何か。

世界の日本の最先端のエネルギー基地であるが、八戸の是川遺跡・七戸のニツ森遺跡という縄文遺跡がある。1万年前～3千年前はこの地区は素晴らしいパラダイスであり、1万年続いた縄文時代があつて、これが日本の文化の基礎をなしていることをパンフレットに入れ込んで、経団連の力を借て、北海道・北東北の縄文遺跡が世界遺産に登録されるよう、目指しているのです、そのような物語を作りながら、今後の開発を進めて頂きたい。

9. 会社の経営状態については、薄井社長を始めとする関係者の努力の賜である。むつ小川原開発地区は、エネルギー集積地であるので、その特徴を活かした都市形成を行う事が大切である。仕事柄から関心があるのは、人材育成で、研究機能を充実させてエネルギー関連の世界的なビジネス、人材育成の拠点にして行くことに大いなる可能性が見い出せるのではないかと感じている。産業観光の拠点あるいはホテルと連繋した都市基盤整備の話があつたが、中長期的に見れば人材育成と密接に関わってくる。県内の様々な大学、高専、短大といった高等教育機関が連携して人材育成に係わって行くことで、非常に大きな拠点になり得るポテンシャルをこの地区は持っており、特に情報関係 IT 技術に関しての高度な技術力を蓄えていることから、密接な連繋をもってサービス提供を図っていくことが重要ではないか。人材育成は長期的な課題になってくるので、中長期的な観点から戦略的に図って行くこと、それと併せて今の課題にもしっかり踏み込んで取り組みを進めていくことが大切である。
- 県においても原子力関連専門の人材育成を目指すプロジェクトが始まるし、環境科学技術研究所は放射性物質の環境への影響に係わる調査研究、低線量率放射線の影響に関する調査研究が行われている。福島では、大変不幸な事故が発生したが、低線量率放射線が環境にどんな振る舞いをしているのか未解明な点が多くある。放射性物質の環境中、或いは人体内での挙動に関する調査、低線量率放射線の生物影響に関する調査、これは是非、福島の経験を踏まえて一緒に研究し、その成果を国、更に世界に向けて情報発信し、関係者にフィードバックして行くことが重要になってくる。日本で出来る社会貢献、国際貢献を行うことに大きな意味があるし、そういう取り組みを新むつ会社がバックアップして行くことが非常に重要である。更には未来に向けた研究開発拠点としては医学系への応用であるが、放射線治療に向けた基礎研究、治療実施施設の開発に向けた取り組みを支援することである。日本には量子線がん治療施設が14箇所あり、治療施設においては世界で一番多い国だが、特に重粒子線がん治療については治療患者数、治療成績の観点から世界の最先端を行っていると言われている。こうしたエネルギー、環境、そして医療への研究開発機能を一層充実させる方向で、将来の新産業創出、拠点整備、インフラ構築を行っていくことが重要であると感じている。中でも、高度な研究開発インフラ構築となると、人材が非常に重要で、来村する方々が快適に生活して行く都市環境の整備も重要になってくるし、魅力的な都市形成に向けた住環境のインフラ整備が引続き非常に大切になる。
- 先程、説明いただいた色々な取り組みの中の一つとして、東北震災復興は中央

大手のみならず地場の資源を活かすという話があったが、これは非常に大事で、地域の中で価値を創出し、お金を回して行くことである。農商工連繋とされているが、コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスという観点から、地域のビジネスを興して行く人達との連携、これを盛んにするための枠組み、環境インフラづくりが大切である。そういった領域に対して、新むつ会社としてどう位置付け、社会的な戦略経営を行っていくかが問われている。

10. 先程、薄井社長から経営概況報告を伺い、経営的には問題は無く、役職員、関係者に敬意を表す。その上で新むつ小川原が会社として成長するためには、地元の成長が不可欠であり、特にこのビジネスについてはそう思うので町の発展、また県の発展を是非期待したい。

日本創生会議というのがあり、「まち・ひと・しごと創生会議」のメンバーとして、明朝も会長と一緒に官邸での会合があるが、今回の「まち・ひと・しごと」の基本的な考えというのは、今まで国がいろいろ指図しすぎた事を踏まえ、むしろそれぞれの地域の自主性、主体性を大事に進めて行くことになると思う。私が町、村へこうあるべきだというような事は烏滸がましいが、一般論として聞いて頂きたい。総合戦略を六ヶ所村も3月末に提出したと思うし、それを着実に進めて頂きたいが、その中で、昨年第15回経営諮問会議前に現地視察した際の印象としては、かつての「つくば学園都市」が抱えていた、暮らし・技術・学問を発展させる方向で施設を整備したものの、中々、人が見えないし、街を歩いている人がいないことであった。雇用を創って行くことも不可欠だが、今後の企業誘致にあたっては、雇用をどれだけ創うことが出来るのかが重要で、その雇用が街に住む人を増やすことに繋がっていかないと、一時的に行ってまた明日帰りますでは、街の発展は難しい。

そのためには、住みたいと思う街づくりが重要で、色々な施設ができると同時に、他の地域とも連携しながら、そこを繋ぐような、生活が出来るような街づくりを住民の力を借りる共に、是非支援すべきである。

観光の話が出たが、私も視察して無限の可能性を秘めた地域であり、特にエネルギーの総合的な発展を担って行く街であると強く感じた。新たに青森県の原子力人材育成研究開発拠点施設が建設されるが、今までどおり単に施設を造りましたが、或いはそこにおけるエネルギーを造ることだけで無く、同時に人を育てて行くことを担うことが必要である。

来訪する多くの方々が、街とどう繋がっていくのか、世界中から人材が集まってくるかも知れないが、住民との間に距離ができると、施設があったからで、六ヶ所村が好きだから行った訳では無いことになってしまう。村の将来的な発展を考えると、観光を発展させて行くことも重要で、来訪した人達がもう一度行きたい、何度も何度も訪問したい街づくりが不可欠である。

八戸市を訪問した際、アイスホッケーOBや商工会の方々に六ヶ所村はどういう所かと聞いたら、エネルギーの村であり、そこにホテルを造るのは経営的には難しいという答えが多かった。去年は弘前大学での講演や青森市で新聞社の講演等で、青森県を何度か訪問したが、県内における認知度が十分展開されていないし、同じ県でありながら違う地域であるという感じを持たれている。無限の可能性をもっていることから八戸、七戸等と観光で連携するとか、他の地



域との連携が重要になってきている。

11. 薄井社長(回答・補足説明)

各委員の皆様には、大変多岐に亘るご指摘を頂き誠に有り難うございます。

当社ができる範囲は限られている。行政、民間企業、金融機関と連携しながら課題の達成に向け引き続き努力したい。本日の議論の要約としては、第1に、産業観光の重要性、そのためには、インフラ、ホテル・利便施設などが必要とのご指摘があった。第2に、ソフトに関わるが、人材育成、地域雇用の確保もあわせて肝要とのご指摘があった。

また、見方を換えれば、産業観光において「縄文文化から山羊の放牧まで」ストーリー性をもった訴求力があるのご指摘、さらに黒字継続といった短期的な視点ではなく、リピーター確保の観点からも(中期的に)計画的な施策を打つべきとのご指摘もあった。

回答は以上であるが、補足説明をさせて頂く。本会議の内容については、経営諮問会議規則により公表することとなっているので、発言者の氏名を伏せた上で、当社ホームページ上に要旨を掲載させて頂く。掲載内容については、後日、委員の皆様を確認をするので、よろしくお願い申し上げます。

また、委員の任期は、経営諮問会議規則第3条によって「2年」となっており、沼田委員を除き、この7月末日で満了するが、引き続き再任をお願い申し上げます。

最後になるが、本日の資料については、6月17日に定時株主総会を予定しているため、それまで取扱いの程、宜しくお願い申し上げます。

12. 榊原会長(閉会挨拶)

本日は委員の皆様から、前向きで建設的なご意見を頂いたが、これはこの地域に対する非常に大きな可能性、樋口先生は無限の可能性と述べているが、本当にそのような思いがする。むつ会社は経営の安定が非常に大きな目標であったが、それは通り過ぎ、一昨年から成長拡大フェーズに変わったという認識を持って頂いているということをお願いしており、是非、経営安定化からさらに成長・拡大を目指して前向きな経営をして頂きたい。委員の皆様、私を含めて各地方も、それぞれむつ小川原を支援する。先程、縄文遺跡の話があったが、可能性があり、観光資源としても強みが増してくるし、色々な面での可能性があるため、引き続きの支援・協力をお願いする。

これを持って経営諮問会議を終了する。

以上